①教科学習をする際、教材の作成で意識して工夫したりしているところ

●視覚的支援の教材の作成
・視覚教材を作成する。
・子どもにあった視覚的支援。
・目で分かるようパワーポイントや視覚的教材を活用する。
・できる限り、実物を用意する。
・本物や写真を使って具体物を提示できるようにする。
・イラストを用いてイメージを作る。

●子どもの実態にあった教材づくり
・子どもの実態や特性に合わせた教材づくり。
・児童にとって身近なものを提示する。
・児童の実態に合わせて、プリントを記述式や選択式に分けて準備している
・子どもにあった学習プリントをネットワークから取り入れる。
・その教材が子どもにとって簡単すぎず、難しすぎず、適正な難易度であるか確認している。
・グループの児童全員が見て分かるかどうか考えている。

●板書の工夫
・助詞に色をつける。
・授業のポイントをまとめた掲示物を貼ったりする。
・台紙など色画用紙を使うときは、色を目的ごとに使い分ける。
・教材とは少しずれるが、誰が話しているかわかるようにする。
・短冊の見易さ（誰が見ても分かりやすいようにうすい色画用紙に濃い色の字で書くなど）。
・漢字にルビを振る（読み間違いがないように）。
・色覚面で判断が難しい児童もいるので、まぎらわしい色同士（赤と赤茶）を組み合わせないようにする。

●その他
・身の回りの物の名前を覚える学習をしている（教科書で学習もしながら）（絵や写真、実物と指文字、手話をマッチングできるように）。

②子どもの自己認識（障害認識を含む）を高めるための取り組み

●友だち同士のかかわり

・いいところさがしをして自己肯定感を高められるようにした。

・体育で子ども同士ペアを作り、タブレットで動画を撮り自分の動きをすぐに確認できるようにしている。

・ありがとうカードを書いて、友だちに渡しあっている。

・発表や話し合いの際に相手に伝えることを意識させる。

→自身が相手に伝えることを意識することができていると、自身が相手にどのようにしてほしいのか、どのような配慮をしてもらえると過ごしやすくなるのかを考えることに繋がるため。

●学習から自身を振り返る

・過去を振り返ることは、自分を見つめ直すことのきっかけに繋がるので、昨日はなにをしたか、休日は何をしたかなど話し合う時間を設ける。

・日頃から何に困っているか、どのように解決すべきか考えさせている。

・コミュニケーション手段を状況に合わせて考えさせる。

●その他

・マイナスな言葉でなく、できる限りプラスな言葉かけをする（走らない→歩きましょうなど）。

・生活上の問題（朝起きる方法など）について、先人がやってきた工夫、現在使われている機器を示して、どんな問題でも解決、対処方法があることを伝える。

・きこえない大人、先輩との交流の場を作る。

・きこえにくさを助けてくれる福祉機器や福祉制度について学習している。

・リフレーミングの学習を取り入れている。